

いのちの森づくりプロジェクト

神奈川・進和学園 苗木育て販売・植樹



2015.8.10

神奈川県平塚市の社会福祉法人進和学園(出縄雅之理事長)は、福祉・労働・環境・教育の連携を目標に「いのちの森づくりプロジェクト」に取り組んでいる。約80種類の苗木を育て、植樹する活動は防災や温暖化防止などの環境改善に役立つと高評価。「地球貢献活動」として、防災や環境行政・ボランティアなどから注目されている。(井口拓治)

8カ所の知的障害者「ス」の植栽を相談した。その土地本来の樹木を、などの被害を抑える効施設などを運営すること。たまたま同学園 見極めて苗木を育て、果があるという。学園がプロジェクトに、に車の部品組み立て作 主役となるシー・タプ取り組んだきっかけ 業を発注している本田・カシなどの高木を中は、出縄明・前理事長 技研工業(株)も宮脇教授 心に中低木を混植・密がラジオで宮脇昭・横の指導を受け「さるさ 植すること、本物浜国立大名養教授との森づくり」を行っ (自然)の森を再生す「潜在自然植生」の話を聞いていた縁もあり、どんな取り組み。シイなどを聞き、2006年3 ぐり拾いや苗作りを手 すぐ根を張るので、台風・地震・大火・洪水「しんわルネッサン 潜在自然植生とは、



苗木の草取りをするどんぐりグループのメンバー

自然を相手に働く



湘南国際村での植樹活動

数は16万5000本を超え、年間売り上げは2100万円を超えるまでになった。防災や環境行政・ボランティアとのつながりも深くなり、10年からは湘南国際村の森林再生計画にも参加。累計約2万6000本の苗木を提供するなど大きな役割を果たしている。

■他の施設と協働も

また、プロジェクトに賛同する他の障害者施設と苗木の栽培や植樹・育樹作業に関する知識やノウハウを共有。同様の活動に取り組む施設のネットワーク「どんぐりプラザ」が5法人・事業所に広がった。

■定期的に育樹作業

苗木は1ポット平均450円で販売しているが、植樹祭などの依頼があれば苗木を植える場所を耕したり、植樹を手伝ったりする。巴(一)から寄付金の募集を開始。年々賛同者が増え、現在では年間1300万円が寄せられており、予算立ての難しい学校や行政に苗木を提供する費用などに充てている。

小型のビニールハウスで5種類の苗木を育てる。

プロジェクトを支えているのは、ルネッサンティアと一緒に作業したり、学校で生徒たちと植樹したりする。施設にいるときと違った空気を味わうことができる。室内の部品組み立て作業ができない人も自然相手だと溶け合っていて作業ができる」と、利用者にも好影響があると話す。

プロジェクトを始め、9年目。苗木の出荷は多い。